

旅を因数分解する

高岡文章（立教大学）

人生は旅のようであるとか、旅は人生そのものであるとか。何度も聞かされ過ぎたせいで、そのメタファーはもはや凡庸で退屈なものとして響く。いまさら口にするのも憚られる。

けれども、いま観光について考えようとする、私たちはその地点に再び引き戻される。人生などといえばおおげさであるし、世界など大き過ぎるのだから、「社会」ということにしておこう。「日常」といってもいい。社会と観光はどのように、どれくらい重なっているのか。私たちの日々の日常と、旅という非日常は、どのように線引きされ、どのように関係し合っているだろうか。

Covid-19 は私たちの社会を一変させたと言えないものの、交通とコミュニケーションの進展が社会を劇的に変容させていく、いわゆるモビリティの時代を一気に加速させたと言ってよさそうだ。私たちは、移動について、観光について、もう一度考え直さなければならない。旅がどのように姿を変えているのかだけがここでの焦点ではない。そもそも旅とはどういうものなのだろうか。旅を因数分解してみたい。

参考文献：

神田孝治・遠藤英樹・松本健太郎編（2018）『[ポケモンGOからの問い——拡張される世界のリアリティ](#)』新曜社

遠藤英樹編（2021）『[アフターコロナの観光学——COVID-19 以後の「新しい観光様式」](#)』新曜社

アンソニー・エリオット&ジョン・アーリ（遠藤英樹監訳）（2016）『[モバイル・ライブズ——「移動」が社会を変える](#)』ミネルヴァ書房

ジョン・アーリ（吉原直樹・伊藤嘉高訳）（2015）『[モビリティーズ——移動の社会学](#)』作品社